

定年後に事業を起こす法 金井誠之（しげゆき） S8 年生まれ。

1999 年の本。

定年を迎えるにあたってたいせつなことは、「第二の人生をおおいに楽しもう」という気持ちを持つことだと思います。

それには、まず、青年のような若い心を取り戻すことです。**楽しみを求める心や、楽しみを謳歌する気持ちは、心が若くなければ持てません。**そして、心の若さは気の持ちよう、どうにでもなるものです。自分が若いと思えば、心は若くなるのです。

気持ちが若返ったら、次はおしゃれ心です。
おしゃれの第一は、顔つきから始めましょう。
おしゃれの第二は、身なりです。

第二

の人生を間違いなく自分のものにするには、どのような道を選ぼうと、前向きに取り組んでいくことです。

そのためには、**つねにやる気まんまんで、胸を張って上を向いて歩く**ことです。しょぼくれた年寄りがうつむいてトボトボと歩いていたのでは、すてきな美人も幸運の女神も、それと気づかずに見過ごしてしまうことでしょう。

夫婦であることを意識するよりも、むしろ**恋人同士**の関係がお似合いです。
恋人をめざすと同時に、「**茶飲み友達**」をめざすことです。

茶飲み友達というのは、お互いに気心が知れ、いっしょにいても肩の凝らないのが条件です。いままで長いこと夫婦をやってきた仲です。無理な注文ではないでしょう。
茶飲み友達でもっとも重要な点は、女房から、いつも自分のそばにいてほしいと思われる存在になることです。そのためには、**楽しい話題を豊富**にすることもたいせつです。お互いに共通の視野で、同じ高さの目線で世間を見る努力も必要になってきます。

第二の人生の仕事は、「働き甲斐」が大事。

「いままで一生懸命働いてきたことだし、もうガツガツ働かなくても食べていける。定年を機にもう働くことをやめ、第二の人生は悠々自適、趣味三昧で生きるとでもしよう」

・・・

趣味の世界で、本心から生き甲斐が持ち続けられる人は別です。そういう人は、その生き方でよいのです。

・・・

このような趣味三昧の道を選んだ人たちの大半は、まずは二、三年で**趣味のお遊びに飽**きてしまうでしょう。

そうなるもまた、働きたくなる。しかし、それからではもう遅いのです。

いくら働く気がでてきたからといっても、いざとなると、やはり億劫なものです。なにしろ、一度は仕事を放棄した人です。体力、気力とも、もう、いうことをきかなくなっていることでしょう。

・・・

日本人の大半は、もともと働くことに生き甲斐を感じるのです。それなら始めから「働く**第二の人生**」を考えるべきではないでしょうか。

「会社に行っていたころは家の庭の雑草を取るのがたいへんでねえ。女房に泣きつかれて、たまの休日をよく潰されたものだった。それがどうだい、いまは毎日が庭の草むしりでねえ、そのおかげで、わが家の庭はいつも雑草一つない、きれいなものだよ。」

第二の人生にふさわしい仕事は、「趣味と実益を兼ねる」もの。

自分の力で仕事を作り出す。事業家として独立する。

再雇用のあとは、働けるけど放り出される。職探しをしても、まともな職は見つからない。

「サラリーマンにとって、生き甲斐のある第二の人生とはどういうものか、その中で、楽しい仕事を作り出すには、どうしたらよいのか」。

拙著は、この問題について、その考え方、心構え、これを実現する方法などについて記したつもりです。

総合点では、本格事業家に負けないだけの、多くの価値を持っているのが、卒サラ事業家なのです。

卒サラ事業家とは、

- ・自分の生き甲斐の「場作り」を目指す事業家
- ・失敗が絶対許されない事業家
- ・無借金

新しい仕事を始めるときは、コネがあるかないかで結果は大違い。コネがないと相手にされない、信用されない。

第二の人生の仕事としてなにを選ぶか。

生き甲斐をほんとうに満たすものか。

第二の人生の仕事探しは、「生き甲斐探し」のことである。

目標を達成するためには、闘う武器がいます。すなわち「手段」です。また、武器が

手にはいったら、今度は勝つためにどうやって闘うのかという戦術を決めなければいけません。目標を達成するための「方法」です。完全な「手段」と「方法」があって、初めて目標は達成されるのです。

~~~~~

「ゆり工芸 金井 ゆりか」で検索  
→「検索条件と十分に一致する結果が見つかりません。」

「金井誠之」で検索しても著書しか出てこない。

~~~~~

体力的にハードな仕事は、続かない。

車の運転。「約束した時間までに、どうしても行かなければ」→事故を起こしてからでは遅い。